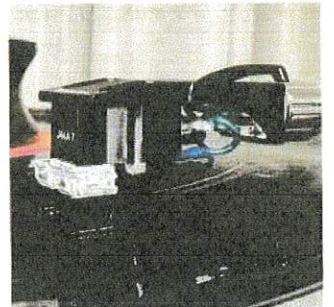


M44-7復刻モデル、JICO「J44A 7 IMP NUDE」で試聴

KS-Remastaのシェルリード線、
上位クラスのサウンドを探るText by
炭山アキラ

Akiro Sumiyoshi

Main Photo by 田代法生



使用カートリッジJICO「J44A 7 IMP NUDE」+テクニクス製ヘッドシェル。交換計は「N44-7」(無振丸針、針圧1.5~3.0g)

KS-Remasta

①KS-LW-1800EVO.I

¥11,000(税込)

ストレートでエネルギー

●導体:海外製高純度OFC直径0.6mm単線 ●ハンダ:Remasta EVO I フレンド

②KS-LW-9500EVO.II

¥11,000(税込)

クールで透明、豊富な情報量

●導体:国産PC-TripleC/EX単線 断面横約0.49mm2 ●ハンダ:KS-Remasta EVO.II

<4モデル共通>

全長:約43mm(長さ100mmまで同一価格で承ります)

シェルチップ:全メッキ銀青銅、カートリッジ側1.2mm、シェル側

1.0mm、テーパー加工(シェル側1.2mmも同一価格で承ります)

※1、3、4の単線モデルはDL-102モデル仕様も同一価格

③KS-VWS-Spirit II/N

¥11,000(税込)

スケールが大きく、明快でダイナミック

●導体:1950年代ヴィンテージワイヤーawg22(直径約0.6mm)単線 ●絶縁体:ブラウンエナメル+透明熱収縮チューブ ●ハンダ:KS-Remasta選定1940~50年代ピンテージハンダN

④KS-Stage 121 EVO.I

¥16,500(税込)

ワイドレンジ&ハイスピードサウンド

●導体:海外製高純度OFC 鏡面加工仕上げ(直径約0.6mm KS-Remasta Stage1クレード)最終仕上げ10000番(4段) ●ハンダ:KS-Remasta EVO. I

すべての面で上級
それぞれの長所が現れる

前号ではJICOの復刻M44・7を用いて廉価クラスを聴いた。今号はもう一段上位のクラスで音を聴き比べてみよう。まず前号の実験と連続性を持た

たせるため、LW・1800S TDを聴く。クラシックは音数多く立体的で、結構楽しめる。ジャズは声が積極的で生々しいが、低域が若干量感を減ずる感がある。ポップスは切れ味鋭く、ビシリと決まるビートが快感だ。

①LW・1800EVO.I

へ交換、導体はSTDと同じだが、ハンダが異なる。クラシックは音数が一気に増して音場も広大、特に奥行き感がグンと広がり、くすんだ感じが消え去った。ジャズは中高域の耳に引くかかる部分が消え、声がかく深く伸びる。音場は明るくよく広がる。ポップスはさらにパワフルで切れ味鋭く、声の伸びがSTDとは完全に一線を画している。

②KS・LW・9500EVO.II

PCトリプルC・EX撚り線にEVO・IIハンダを組み合わせたものだ。クラシックは当たりが柔らかでホッとさせつつ、微小域は顕微鏡的な解像力を聴かせる。ジャズは厚みがあって声は細やかな抑揚を悠々と表現、キツさが消え去って実にいい聴き心地となった。ポップスは若干ビートの勢いが

緩くなった感も。スローバードに向きそつた。

③KS・VWS・Spirit II/Nを聴く。

ヴィンテージの単線とハンダを使った個体だ。クラシックは僅かにハイ落ちの感もあるが、帯域バランスは悪くない。ヴィンテージとは思えない解像度とそれらしい洪みの饗宴という感じだ。ジャズは声が生氣をたつぷりまとい、バックも華麗に伸びる。聴き心地最高だ。ポップスは声に人の血が通った感じで、歌手の肉感を表現する。

④KS・Stage 121 EVO.Iを聴こう。

1800に柄沢代表「匠」の磨き工程が加わった製品である。クラシックはキツさが解消し、音の張り出しと輝かしさをそのままにきめ細かく音場もさらに広がる。ジャズは声がどつしり太く、しかし軽やかに朗々と歌う。ポップスはガンガンぶつ飛ばすバックを完全に従えて、歌手がシャウトしまくるのが快感だ。すべての面で上級という外ない。